

日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 97 号 2006 年 8 月 1 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

電子メール oguro@sakushin-u.ac.jp

■■ 目 次 ■■

日本図書館文化史研究会 2006 年度研究集会のご案内	2
日本図書館文化史研究会 2005 年度活動報告(2005.4-2006.3)	10
日本図書館文化史研究会 2005 会計年度決算報告(2004.4-2005.3)	11
日本図書館文化史研究会 2005 年度予算(案)	12
日本図書館文化史研究会規約(案)	13
研究例会発表募集のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 2006 年度第 2 回研究例会のご案内	16
オプションツアーのご案内	
『図書館文化史研究』23 号発行のお知らせ	17
『図書館文化史研究』第 24 号原稿募集のお知らせ	
日本図書館文化史研究会 2006 年度第 1 回研究例会報告	18
運営委員会通信	19
事務局だより	20
『会員名簿』2006 年度版発行について	
会員動向	
お詫びと訂正	

日本図書館文化史研究会
2006 年度研究集会・総会のご案内

2006 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、下記のように開催することになりました。今年度の研究集会では、「もり・きよしー生誕 100 年ー」と題したシンポジウムを開催します。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 程 : 2006 年 9 月 9 日 (土)・10 日 (日)
- 会 場 : 甲南大学 2 号館 2-11 講義室 (神戸市東灘区岡本 8-9-1)
- 交 通 : JR 神戸線・摂津本山駅、または阪急神戸線・岡本駅下車、各徒歩 10 分
※ 会場・交通案内の地図は 9 ページに掲載しました。
また、次の URL をご参照ください。
www.konan-u.ac.jp/
- 参 加 費 : 2,000 円
懇親会参加費 5,000 円
- 申込方法 : 次の事項を明記して、下記まで電子メール、ファックス、または葉書でお申し込みください。
氏名 (ふりがな)・所属・懇親会参加の有無
- 申 込 先 : 〒321-3295
宇都宮市竹下町 908 作新学院大学
司書・司書教諭課程 小黒 浩司
電子メール : oguro@sakushin-u.ac.jp
ファックス : 028(670)3671
- 申込締切 : 2006 年 8 月 31 日 (必着)

○ プログラム

第 1 日 : 9 月 9 日 (土)

シンポジウム

- テーマ : もり・きよしー生誕 100 年ー
- 報告者 : 石塚 栄二
石山 洋
宮内美智子 (東京医療保健大学)
- 司 会 : 志保田 務 (桃山学院大学)

- 13:00 受付開始
13:30-13:40 挨拶
13:40-13:50 シンポジウムの趣旨説明 志保田 務
13:50-14:15 報告① NDCの誕生とその成長過程を巡って
石塚 栄二
14:15-14:40 報告② 国立国会図書館 (NDL) 時代の もり きよし
石山 洋
14:40-15:05 報告③ 恩師もり・きよし先生の遺徳—青葉学園短期大学時代—
宮内美智子
15:05-15:20 休憩
15:20-15:45 まとめ 志保田 務
15:45-16:45 質疑応答、自由討論
17:00-19:00 懇親会 (参加費 5,000 円)
■ 会場 : 甲南大学生協食堂 (甲南大学学友会館)

第2日: 9月10日 (日)

- 10:00-11:00 個人発表① 18世紀前半フランス王室図書館の歴史—ジャン・ポール・ビニョンの図書館政策—
名城 邦孝 (筑波大学図書館情報メディア研究科博士後期課程)
11:00-12:00 個人発表② シェラについて—人物像を中心に—
松崎 博子 (筑波大学図書館情報メディア研究科博士前期課程)
12:00-13:00 昼食
13:00-14:00 個人発表③ 満洲開拓地読書運動—中田邦造と石川県の教師達—
鞆谷 純一 (徳島県立名西高等学校)
14:00-15:00 個人発表④ W・A・マンフォードのイギリス図書館史研究
藤野 寛之 (愛知淑徳大学大学院博士後期課程)
15:15-16:15 会員総会
16:15-17:00 運営委員会

○ 9・10日ともに、学内の食堂等は休業日となっていますので、ご注意ください。

第 1 日

シンポジウム

- テーマ : もり・きよしー生誕 100 年ー
- 報告者 : 石塚 栄二
石山 洋
宮内美智子 (東京医療保健大学)
- 司会 : 志保田 務 (桃山学院大学)

○ シンポジウムの趣旨

もりきよし (森清) は、1906 (明治 39) 年大阪市に生まれました (両親の本籍地は岡山県)。したがって今年はおりの生誕 100 年に当たります。日本十進分類法 (NDC)、日本著者記号表の考案など、もりは日本の近代図書館の基礎を作った代表的な一人です。そこで今回のシンポジウムでは、もりの生涯と NDC の歩みをたどりながら、日本の整理技術の歴史を検証してみることにしました。

前記のように、もりの生誕地は大阪市です。難波近辺に居住、この地で小学校を出た後、西区堂島にあった大阪市立実業学校商業科に入り 2 年後同校を卒業。大阪市内にあった間宮商店に就職しました。2006 年度の研究集会を関西地区で開催することになり、できればそれにふさわしいテーマでのシンポジウム開催を、と検討する過程で、もりの生誕 100 年が浮かび上がってきた次第です。

さて、今回のシンポジウムでは、石塚栄二、石山洋、宮内美智子 (東京医療保健大学) の三氏に報告を、志保田務氏 (桃山学院大学) に司会をお願いしました。

まず石塚氏には、関西時代のもりについて報告をお願いしました。間宮不二雄との出会い、間宮商店への就職がなければ、NDC は誕生しなかったといえます。そしてもりを始め、間宮、加藤宗厚など、日本の整理技術の発展に果たした間宮商店と青年図書館員聯盟が果たした役割は、あまりにも大きいといえます。元大阪市立図書館の石塚氏には、関西時代のもりについてのみならず、間宮商店や青年図書館員聯盟の活動などについても、証言していただきます。

次に石山氏には、国立国会図書館 (NDL) 時代のもりについて報告をお願いしました。もりは 1947 年から 1972 年まで NDL に勤務しました。1950 年 NDL は新訂 6 版の適用を開始しますが、その後 NDL は独自の国立国会図書館分類表 (NDLC) を作成します (1963~1967 年)。元 NDL の石山氏には、NDL が NDC から NDLC に移行した経緯や、もりとの関係などについて、お述べいただきます。

最後に宮内氏には、青葉学園短期大学におけるもりについて報告をお願いしました。NDC は 1929 年 5 版 (1942 年) まではもり個人の著作でしたが、戦後その維持・管理は JLA が担当します。JLA は 1948 年に分類委員会を設け、1950 年に新訂 6 版、1961 年新訂 7 版、1978 年に新訂 8 版が刊行されます。もりはこの時期にその委員を務めました。宮内氏は 8 版作成の委員として、また青葉学園短期大学の同僚として、晩年のもりについて詳しい方です。

司会の志保田氏は、2004 年「日本における図書館目録法の標準化と目録理論

の発展に関する研究」で学位を取得されました。今回のシンポジウムの司会に当たりましては、3人のご報告を受け、シンポジウムのまとめとして、日本の標準分類法である NDC についての総評、もりきよしが目録法、目録規則と関係した部分についてうかがいたいと思います。

報告① 13:50-14:15

石塚 栄二

○ 報告題名

NDC の誕生とその成長過程を巡って

○ 報告要旨

もり・きよしさんの最大の業績は、いうまでもなく NDC の編纂である。その NDC が生みだされた頃の図書館界は、どのような状況であったのか。図書館利の方式が、函架式から分類排架へ、さらに開架式へと変化していく歴史過程のなかに NDC を位置づけることで、その歴史的意義を再確認してみたいと考えている。

もり・きよしさんの図書館活動への出発から、NDC の成立に影響を与えたものは何だったのかを探り、その後の NDC の成長と、もりさんの分類法に関する考え方の変化をたどることを試みたい。

報告は、もりさんの履歴に沿い、主として明治末期から戦後まもなくの時期までを対象とする。つまり、もりさんの誕生(1906年)から国会図書館勤務(当時は帝国図書館、1947年)までを中心としたい。

報告② 14:15-14:40

石山 洋

○ 報告題名

国立国会図書館 (NDL) 時代の もり きよし

○ 報告要旨

もりは戦時中、中国に赴き、1938～43年上海日本近代科学図書館、1948～45年華中鉄道図書館に勤務。中国側に留用され46年4月帰国。8月上京、千葉県市川市に就職、市立図書館設立準備に当たるが、予定施設が転用され、頓挫。47年1月岡田温帝国図書館長に面会、同館嘱託として採用された。48年誕生の職員組合委員に推され全文部職組や全日図役員に選出され、組合関係で岡田館長と対立。NDL 整理局長就任の岡田はもりを赤坂に呼ばなかった。岡田の後任、加藤宗厚は NDC の標準分類表化に努力。公器化した NDC は JLA に移管された。加藤 JLA 分類委員長は委員主査にもりを据え、NDC6 版、同 7 版改訂に腕を振るわせた。上野図書館裏手一棟に JLA 事務局が仮寓しており、もりは JLA 諸事業に活躍した。また全国各地の司書課程や講習の講師を務める。

1961年整理部主任司書に昇任、未公開資料を含む明治期刊行図書12万余部の目録編集組織を総括、専用分類表作成を含め72年定年退職まで精励達成した。

報告③ 14:40-15:05

宮内 美智子 (東京医療保健大学)

○ 報告題名

恩師もり・きよし先生の遺徳—青葉学園短期大学時代—

○ 報告要旨

1. 青葉学園短期大学図書館学課程について
2. 学校図書館司書教諭公開講座の開催・運営について
3. 非常勤講師[東洋大学]としての司書養成について
4. 私立短期大学図書館協議会における活動について
5. 「日本十進分類法 (NDC) 8 版」の編纂の姿勢について

[宮内の分類委員会委員 (第 16 期、1976 年～1978 年) としての感懐]

第 2 日

個人発表

発表① 10:00-11:00

名城 邦孝 (筑波大学図書館情報メディア研究科博士後期課程)

○ 発表題名

18 世紀前半フランス王室図書館の歴史—ジャン・ポール・ビニョンの図書館政策—

○ 発表要旨

18 世紀のフランス王室図書館では、1719 年から図書館長を務めたビニョンにより大規模な発展が成し遂げられた。そのビニョンは図書館での仕事を始める以前、様々な公的機関の組織改革を行い、フランスにおける文化の発展に努めていた。ここではビニョンの図書館での活動を、それ以前の活動との関連から考察していくことにより、当時ヨーロッパでも有数の図書館といわれた王室図書館の発展の歴史を総合的に明らかにしたい。また、特にここではビニョンの書物に関する考え方を明らかにするためにも、彼が 1702 年から編集長を務めたジュルナル・デ・サボンについてもその内容を考察してみたい。

発表② 11:00-12:00

松崎 博子 (筑波大学図書館情報メディア研究科博士前期課程)

○ 発表題名

シェラについて—人物像を中心に—

○ 発表要旨

アメリカの図書館情報学者、ジェシー・H・シェラ (Shera, Jesse Hauk: 1903 - 1982) は、図書館史の研究者として高い評価を得ている。シェラは、歴史研究のみならず、図書館学全般に亘るさまざまな領域に関して膨大な著作を残した。図書館現象を理論化しようとして試み、あらゆる観点から図書館学を追究したシェラの業績が、現在の図書館界にどのような影響を与えているのか、そして

その妥当性を検討したい。

発表③ 13:00-14:00

鞆谷 純一（徳島県立名西高等学校）

○ 発表題名

満洲開拓地読書運動—中田邦造と石川県の教師達—

○ 発表要旨

昭和前期に活躍した中田邦造（1897-1967）は、図書館活動や読書運動の指導者として有名である。しかし、彼の生涯のなかには、満洲への移民を奨励することで、結果的に人々を死地に追いやり、また戦時下の中国大陸から図書を持ち去るなどの「負の歴史」もあった。

今発表では、中田邦造と石川県の教師達が取り組み、失敗に終わった満洲開拓地読書運動についてとりあげる。

具体的には、「財団法人満洲開拓読書協会」と「芝富読書指導者養成所」の顛末を石川県の満洲移民事業と関連づけて詳述し、「負の歴史」を発掘することの意義を問いかけたいと思う。

発表④ 14:00-15:00

藤野 寛之（愛知淑徳大学大学院博士後期課程）

○ 発表題名

W・A・マンフォードのイギリス図書館史研究

○ 発表要旨

イギリス図書館協会はその創立百周年にあたる 1977 年に『図書館協会百年史』1) の執筆を国立視覚障害者図書館長 W・A・マンフォードに依頼した。このことは、マンフォードが適任だと見なされたからであり、彼はこの仕事を期限までに成し遂げて、内容面ともども評価された。マンフォードのイギリス公共図書館史研究は、1950 年刊行の『ペニー・レイト』2) からはじまった。この図書で 1850 年の「公共図書館法」の成立から 100 年間の図書館界の変遷を取りあげ、その後の研究の出発点となった。ここで取りあげられた主要人物、エドワード・エドワーズおよびウィリアム・ユーワートの伝記が、その後続いて刊行され、研究はさらに図書館協会に寄与した人物であるジェームズ・ダフ・ブラウン、スタンレイ・ジヤスト、ジョージ・マッカリスターの伝記へと続いていった。本発表は、マンフォードの主要な著作物を年代順に紹介し、著者がいかなる意図でこうした人物を取りあげたのかを検討する。そこで見られるのはかならずしも恵まれていたとはいえない人物の群像であり、エリート社会にたいする反抗の姿勢であった。さらにマンフォードの伝記とイギリスの伝統的な伝記との類似点、相違点についても言及したい。

1) A History of the Library Association, 1877-1977, London, Library Association, 1976, 331p.

2) Penny Rate : Aspects of British Public Library History 1850-1950. Newcastle Upon Tyne, Hindson Reid Jordison, 1950, 150p.

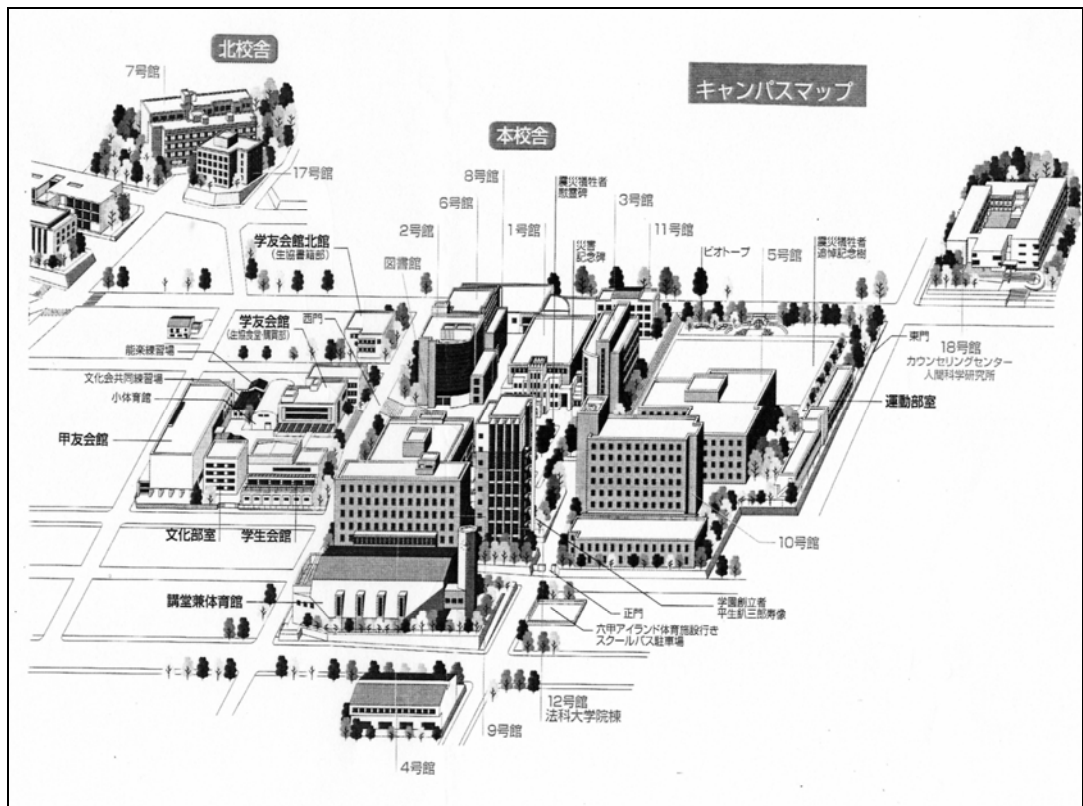
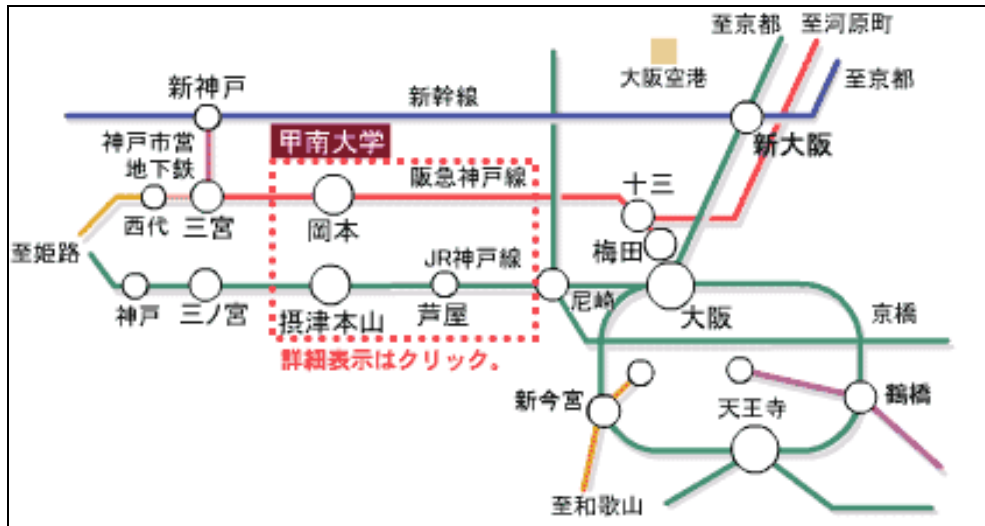
会員総会

次のような案件の審議を予定しています。多くの方のご参加をお願いします。
なお、その他検討すべき議案などがあれば、事務局までご連絡ください。

議事内容

1. 日本図書館文化史研究会 2005 年度活動報告(2005.4-2006.3)
2005 年度の活動内容をご報告します。10 ページの資料をご参照ください。
2. 日本図書館文化史研究会 2005 会計年度決算報告(2005.4-2006.3)
2005 会計年度の決算をご報告します。11 ページの資料をご参照ください。
3. 日本図書館文化史研究会 2006 年度予算 (案)
2006 年度の予算、ならびに活動計画を提案します。12 ページの資料をご参照ください。
4. 「日本図書館文化史研究会規約」の一部改正について
13～15 ページ掲載の、「日本図書館文化史研究会規約(案)」をご覧ください。
下線部分が今回の改正部分です。
5. 創立 25 周年記念事業について
創立 25 周年記念事業について、ご審議をお願いします。
6. 西日本図書館学会との行事の共同開催について

会場案内



日本図書館文化史研究会
2005年度活動報告（2005.4—2006.3）

1. 第22回研究集会・総会の開催

参照：『ニューズレター』第93号

期 日 2005年9月17・18日

会 場 日本図書館協会会館

共 催 日本図書館協会

- 第1日目は、シンポジウム「図書館用品 その保存と活用」を実施した。第2日は個人発表4件と総会を実施した。
- 総会では、2004年度活動報告、2004年度決算報告、2005年度予算、創立25周年記念事業等が審議された。

2. 機関誌『図書館文化史研究』第22号の刊行（2005年9月）

2004年度シンポジウムの記録、論文2篇等を掲載し、刊行した。

3. 会報『ニューズレター』の編集刊行

第92号を2005年5月、第93号を同8月、第94号を同10月、第95号を2005年1月に刊行した。

4. 研究例会

(1)第1回例会（期日：2005年7月2日、会場：大倉精神文化研究所）

大倉精神文化研究所見学会を実施した。参照：『ニューズレター』第93号

(2)第2回例会（期日：2005年11月26日、会場：桃山台学昭和町学舎エクステンションセンター分室）

2件の発表を実施した。

参照：『ニューズレター』第95号

(3)第3回例会（期日：2006年2月25日、会場：明治大学司書・司書教諭課程室）

2件の発表を実施した。

参照：『ニューズレター』第96号

5. 運営委員会の開催

2005年7月16日（明治大学）、9月18日（日本図書館協会）、11月26日（桃山学院大学昭和町学舎）、2006年2月25日（明治大学）の4回実施

6. 会員動向

2006年3月末日現在 167：名（うち名誉会員3名）

（05年末：161名、04年3月末：152名、03年3月末：146名）

新入会：13名（05年度：10名、04年度：12名、03年度：10名）

退 会：7名（05年度：1名、04年度：6名、03年度：4名）

日本図書館文化史研究会

2005 会計年度決算報告 (2005.4-2006.3)

収入		1,087,403	
	金額	備考	
郵便局貯金受取利子	15		
会費	472,540		
04年度分	12,000	4名	
05年度分	465,000	155名(ほか前年度納入済8名、名誉会員3名、未納8名)	
06年度分	6,000	2名	
同振込手数料	-10,460	70円134件、60円18件(ほか自己負担3件)	10460
2004年度繰越金	612,476		
第3回例会剰余金	2,372	詳細別紙	
支出		472,565	
	金額	備考	
『図書館文化史研究』22号制作・発行費	296,250		
日外支払い	268,415		
奥泉氏立替分	2,640		
抜き刷り制作費	18,900		
同振込手数料	105		
同送料	3,710	5件(奥泉氏立替)	
奥泉氏立替分	2,480		
『ニューズレター』92号制作・発行費	31,975		
印刷費	16,800		
振り込み手数料	105		
送料(1)	10,300	110通*90円、200円*2通	
送料(2)	4,770	53通*90円	
『ニューズレター』93号制作・発行費	33,280		
印刷費	16,800		
送料	16,070	177通*90円、1通*140円	
版下送料	410		
『ニューズレター』94号製作・発行費	30,915		
印刷費	14,700		
送料	16,110	179通*90円	
振り込み手数料	105		
『ニューズレター』95号製作・発行費	29,745		
印刷費	13,650		
送料(1)	14,940	166通*90円	
送料(2)	190	1通*190円(航空便)	
送料(3)	860	6通*90円、4通*80円(会費督促)	
振り込み手数料	105		
2005年度研究集会費用不足分	7,735	詳細別紙	
事務局経費	42,665		
第1回例会費用	8,450	詳細別紙	
通信費	13,120	詳細別紙	
事務用品等購入	17,985	詳細別紙	
交通費	3,110	詳細別紙	
2006年度への繰越金	614,838		

監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正に行われていたことを報告します。

監事 山本 順一 印
 監事 山口源治郎 印

日本図書館文化史研究会

2006 年度予算 (案)

収入		1,190,254
	金額	備考
郵便局貯金利子	16	
会費	469,400	
2006年度分	480,000	160名×3,000円
同振込手数料	-10,600	100名×100円、60名×60円
研究例会・集会参加費	105,000	
第2回例会	5,000	10名*500円
2006年度研究集会	100,000	50名*2,000円
雑収入	1,000	予稿集売り上げ
2005年度繰越金	614,838	
支出		571,555
	金額	備考
『図書館文化史研究』23号発行費	320,000	
『ニューズレター』発行費	143,555	
96号	27,555	(発行済)
97号	50,000	会員名簿作成費を含む
98号	33,000	
99号	33,000	
研究例会・集会運営費	60,000	
第1回例会	0	(実施済)
第2回例会	10,000	
2006年度研究集会	50,000	
事務局経費	48,000	
通信費	15,000	
事務用品購入	20,000	
運営委員会開催費	10,000	
交通費	3,000	
2007年度への繰越金	618,699	
-----特別会計		100,000

日本図書館文化史研究会規約（案）

第1章 総 則

第1条 本会は、日本図書館文化史研究会（Japan Association of Library and Information History）と称する。

第2条 本会の事務所の所在は、原則として、運営委員会の定める機関におくものとする。

第2章 目的および事業

第3条 本会は、図書館文化史とそれに関連する諸部門に関する研究およびその研究者相互の協力を促進するとともに、外国の関係学会との連絡を図ることを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1 研究者の連絡および協力促進
- 2 研究会および講演会の開催
- 3 機関誌、その他図書等の刊行
- 4 「ニューズレター」の定期的発行
- 5 外国の関係学会との連絡および協力
- 6 前各号のほか、運営委員会において適当と認めた事業

第3章 会 員

第5条 本会の会員となることができる者は、次の各号に定める資格を有する者で、運営委員会の承認を得た者とする。

- 1 大学等の教育研究機関において図書館文化史に関連する分野を専攻する者またはこの分野に関心をもつ研究者
- 2 図書館実務に携わり、図書館文化史に関連する分野に深い関心を抱く者
- 3 前2号のほか、図書館文化史に関心をもつ市民で、運営委員会が会員としてふさわしいと認めた者

第6条 会員となろうとする者は、本会事務所あてその意思を証する書面を提出しなければならない。

第7条 本会に、名誉会員をおくことができる。名誉会員は、運営委員会の推薦にもとづき、総会において決定する。

第8条 会員は、名誉会員を除き、総会の定めるところにより、会費を納めなければならない。

- 2 会費は年 3,000 円とする。

第8条の2 本研究会の目的および事業に賛同する組織、団体は、賛助会員となることができる。賛助会員は、運営委員会が推薦し、総会の承認を得るものとする。

- 2 賛助会員の会費は、年会費として一口 3,000 円とする。

- 3 賛助会員は代表者を指定し、代表者は、本研究会の運営につき、5条に

定める会員と同等の権利を行使できる。

第9条 会員（賛助会員を含む）は、本会の機関誌、ニューズレターの無料配布を受ける。

第10条 会員は、次の場合には、退会したものとす。

- 1 本人が退会を届け出たとき
- 2 会費を連続2年間滞納し、会員にとどまる意思が明確でないと運営委員会が判断したとき
- 3 本条は、賛助会員に準用する。

第4章 機 関

第11条 本会に次の役員をおく。

- 1 代 表 1名
- 2 運営委員 15名以内
- 3 監 事 2名
- 4 事務局長 1名
- 5 編集委員 若干名

第12条 運営委員および監事は、総会において選任する。

- 2 代表は、運営委員会において選任し、総会の承認を得る。
- 3 事務局長および編集委員は、運営委員会において互選する。

第13条 前条の役員の任期は、原則として、総会により選任、承認された翌年の4月1日から満3年とする。

- 2 補欠の役員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、再任されることができる。

第14条 代表は、本会を代表する。

- 2 代表が故障のある場合には、代表の意向を尊重し、運営委員会において代表代行を選任する。

第15条 運営委員は、運営委員会を構成し、会務を執行する。

- 2 運営委員会は、事務局長に日常的会務の執行を委任するものとする。
- 3 事務局長は、円滑な会務遂行のために、事務局次長1名を委嘱することができる。

第16条 監事は、会計および会務執行の状況を監査する。

- 2 会計年度は、4月1日から翌年の3月31日とする。

第17条 運営委員会は、毎年1回、通常総会を招集しなければならない。

- 2 運営委員会は、必要があると認めるときは、いつでも臨時総会を招集することができる。
- 3 会員総数の5分の1以上の会員が、会議の目的を明示して請求したときは、運営委員会は臨時総会を招集しなければならない。

第5章 規約の変更および解散

第18条 本規約の変更には、総会の議決を必要とする。

第19条 本会の解散は、運営委員会または総会員の5分の1以上の提案にもとづき、総会出席会員の3分の2以上の賛成を得なければ、これを行うことが

できない。

付 則

- 1 本規約は、1995年9月10日より施行する。
- 2 1995年度総会の際、図書館史研究会の会員である者は、本規約の発効とともに、日本図書館文化史研究会の会員となる。
- 3 1995年度総会において、選任、承認された役員の任期は、1995年9月10日から1998年3月31日までとする。

付 則 (2003年9月21日)

- 1 本規約は、2003年9月21日より施行する。

付 則 (2006年9月10日)

- 1 本規約は、2006年9月10日より施行する。

※ 下線部分が、今回改正部分です。

研究例会発表募集のお知らせ

本研究会では、毎年度3回(6月頃、12月頃、3月頃)に研究例会を実施しています。研究例会での発表を希望される方は、次の各項を明記して、別記の事務局までお申し込みください。

なお、今年度第2回例会については、次ページのご案内をご参照ください。第3回例会は、関東地区での開催を予定しています。

- 氏名(所属)
- 連絡先(住所、電話、メールアドレス等)
- 発表題目
- 発表要旨(200字程度)
- 発表時間(通常質疑応答を含め1件1時間程度)
- 発表希望場所(例: 関東、関西)

日本図書館文化史研究会

2006年度第2回研究例会のご案内

2006年度第2回研究例会を、豊橋市中央図書館のご協力をいただき、おむね下記のように実施することになりました。また例会終了後には、交流会を開催予定です。多くの方の参加を期待します。

なお、例会内容等の詳細については、『ニューズレター』次号で、ご案内します。

- 日時： 2006年12月2日（土） 午後
- 場所： 羽田八幡宮、豊橋市中央図書館
<http://www.library.toyohashi.aichi.jp/>
- 内容： 羽田八幡宮文庫址見学、同旧蔵書見学等
- ご案内： 田崎哲郎愛知大学名誉教授

オプションツアーのご案内

上記第2回研究例会の翌日に、田原市図書館の見学会を実施します。あわせてのご参加を期待します。

1. 日時： 12月3日（日）午前
2. 場所： 田原市図書館
3. 内容： 田原市図書館見学
<http://www.city.tahara.aichi.jp/section/library/>
4. ご案内： 森下芳則館長

第2回研究例会・交流会・オプションツアー参加ご希望の方へ

第2回研究例会、例会後の交流会、オプションツアーに参加を希望される方は、8月末日までに、別記事務局までお申込ください。申し込み人数に応じて、交流会会場を確保し、宿泊先の斡旋を行なう予定です。

『図書館文化史研究』23号発行のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第23号が、まもなく刊行されます(本文約120ページ、価格未定)。目次は以下のとおりです。

- シンポジウム 図書館用品 その保存と活用
 - シンポジウム開催の趣旨 中林 隆明
 - 図書館用品の標準化 - 図書館協力への展望のもとで 竹内 哲
 - 歴史的図書館用品の調査・収集事業 木原 祐輔
 - 明治期図書館の閲覧用テーブル、出納台、書架をめぐる話題少々 小川 徹
- 論文
 - 三好高等女学校「婦人図書館」- 学校図書館の先覚者・高津半造 - 梶谷 純一
- 研究ノート
 - 華中鉄道図書館- 森清(もり・きよし)の上海時代 - 米井勝一郎
 - 米国メリーランド州におけるカウンティ・ライブラリー・システム導入と館外サービスの展開(1898-1916) - ワシントン・カウンティの事例から - 中山 愛理

『図書館文化史研究』第24号原稿募集のお知らせ

機関誌『図書館文化史研究』第24号の原稿を募集中です。
原稿の締切は2006年12月末日です。ふるってご投稿ください。
なお、この件に関するお問い合わせ、ならびに原稿の送付先は別記事務局までお願いします。

『ニューズレター』原稿募集のお知らせ

ニューズレターの原稿を常時受け付けています。
次号(98号)掲載を希望される場合、2006年9月末日までに別記事務局まで原稿をご送付ください。
今後ニューズレターで、図書館文化史研究に関わる文献・情報を速報していきたいと思っております。会員・非会員の問わず、関連業績を事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願いします。

2006 年度第 1 回研究例会報告

7 月 1 日、2006 年度第 1 回研究例会が、明治大学司書・司書教諭課程室を会場に開催されました。参加者は 15 名でした。

【発表 1】

○ 発表者

鈴木 宏宗（国立国会図書館）

○ 発表題名

帝国図書館長松本喜一について

○ 発表要旨

松本喜一は第二代帝国図書館長（大正 12 年～昭和 20 年）であり、本発表では、彼の図書館界への登場である帝国図書館長への就任問題、帝国図書館における館長としての活動、図書館界における活動およびその著述について、概略を述べた。松本は図書館界の外から帝国図書館長に就任する際に、当時の図書館界の一部から反感や反発をうけていた。本人も図書館の技術的側面については欠けていたが、時局に適合した書誌の発行や図書館講習所の充実など同館長として管理と運営を行った。日本図書館協会で理事長を勤めており、帝国図書館長就任問題や松本の手法が元で軋轢も生じていたが、文部省との関係を持ち一定の勢力を有していた。また社会教育との関係や、図書館の外の社会に向かったの図書館宣伝の活動は注目すべきである。

【発表 2】

○ 発表者

坂内 夏子（早稲田大学）

○ 発表題名

近代日本社会教育における図書館の位置づけ—乗杉嘉壽と川本宇之介に注目して—

○ 発表要旨

社会教育史研究において、図書館を思想善導の機関と捉える一方で、自発的な人間を形成する機関という見方が示されてきた。この二つの相反する図書館像をいかに結び合わせ得るかを考察することを発表の目的とした。図書館は当然社会状況から自由ではなく、文部省をはじめとする行政組織の意向のもとに思想善導、検閲、選書などを行ったのであるが、その過程において社会教育論の積極的な理論化が進んだ。それと連動しながら乗杉は文部省に図書館員養成所を設立し、川本もそれに参画して講師をつとめた。発表に対して、乗杉は欧米視察の際、日本の通俗教育、社会教育をどのように語っていたのか、欧米視察で見聞したことは日本の社会教育や図書館にどのような影響を及ぼしたのか、図書館と自己教育や自学自習は何のために関わっていたのか、どのような人間の育成をめざしていたのか、などご指摘いただいた。

運営委員会通信

■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 日 時 9月10日(日) 16時15分～17時
- 場 所 甲南大学
- 内 容
 1. 2006年度第2回研究例会について
 2. 西日本図書館学会との共催について
 3. 2007年度研究集会・総会について
 4. 25周年記念事業について
 5. 日本図書館文化史研究会規約の改正について
 6. 『図書館文化史研究』第23号について

ほか

■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2006年7月1日

場所：明治大学 アカデミーコモン8階 司書・司書教諭課程室

以下のような事項について、協議しました。

1. 2005年度決算について
2. 2006年度予算案について
3. 『図書館文化史研究』第23号について
4. 「日本図書館文化史研究会規約」の一部改正について
5. 2006年度第1回研究例会について
6. 2006年度第2回研究例会について
7. 2006年度第3回研究例会について
8. 『ニューズレター』第96号について
9. 『ニューズレター』第97号について
10. 2006年度研究集会について
11. 西日本図書館学会との共催について
12. 会員動向
13. 次回運営委員会について

事務局だより

■■ 『会員名簿』2006年版発行について ■■

会員の皆様のご協力を得て、2006年度版の『会員名簿』を作成し、本号とともにお届けしました。記載事項の訂正・変更などがありましたら、事務局までご連絡をお願いします。

なお、個人情報保護の観点から、『会員名簿』の取り扱いにつきましては、十分ご注意ください。

■■ 会員動向 ■■

名簿の改訂と年度始めが重なったため、多数の方から各種の変更等のお届けがありました。このため今回に限り、新入会の方のみの掲載としました。ご了承ください。新入会をはじめ、6月末日までに事務局に連絡があった事項については、『会員名簿』に掲載されています。

新入会

吉田 肇吾 (沖縄国際大学)

研究分野：情報社会論、図書館行政
早坂 信子 (図書館と文化を考える会)

研究分野：図書館史 (特に青柳文庫、仙台文庫の歴史)、目録法、
中国地図 (康熙図) の歴史
関根 廣明

研究分野：図書館分類法及び日本図書館史

お詫びと訂正

『ニューズレター』96号の「会員動向」欄において、誤って森田俊雄氏を退会扱いとしました。森田氏は2006年度も引き続いて会員です。お詫びして訂正します。